

令和7年度 由井第一小学校 学校経営報告書

令和8年3月24日

八王子市立由井第一小学校

校長 緒方 礼子

I 教育活動の骨格

- 1 経営理念 * 「すべての子どもが希望をもって、自ら伸び、育つ学校」づくり
～9年間を見通した教育課程を通して～

- 2 目指す学校像 * 「笑顔いっぱい、ゆいっ子」
 - 子ども一人一人が、安心して自分のよさを発揮し、意欲的、創造的に活動する学校
 - 保護者・地域社会との相互理解、連携を図り学校の役割をよりよく果たして、その信託にこたえる開かれた学校
 - 芸術や伝統・文化に学ぶ教育活動を重視し、子どもの情操や感性を豊かに育てる学校

- 3 目指す教師像 * 教職員が専門職としての自覚をもち、協働し、学び合う学校
 - ◇ 常に向上心をもち、切磋琢磨する教師集団
 - 「授業」で勝負できる教師（授業のプロ）
 - 認め合い、支え合い、学び合う教師集団
 - * 全ての教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、思考力・判断力・表現力の育成に重点をおいた授業改善を図る
 - * 学力調査、授業アンケートの分析により学力の実態を把握し、日々の授業実践や校内研究での検証を通して指導の工夫改善を図る
 - OJTを取り入れた研修の日常化
 - ◇ 教育者として児童・保護者との確かな信頼関係を築く
 - 児童理解の専門性を磨き、個に応じた指導の充実を図る
 - 一人一人の児童に寄り添い、肯定的な児童理解に努める（特別支援教育の視点に立った児童理解の推進）
 - 保護者の願いを受け止め、信頼関係を築く
 - 学習環境の整備（ユニバーサルデザイン）
 - ◇ 教育公務員としての自覚
 - サービスの厳正 • 礼節、品格

2 目指す学校像 *「笑顔いっぱい、ゆいっ子」

II 今年度の取組目標に対する評価

A (達成) 9割以上

B (おおむね達成) 8割以上

C (一部達成に至らなかった) 7割程度

D (達成できなかった) 7割以下

○「確かな学力」を身に付けさせるために

楽しくわかる授業の実践

① 「わかる・できる」を実感する授業実践【教師：78%、保護者：98%、児童：85%】

【B】

② 教師の授業力の向上【教師：85%】【B】

③ ICT機器（学習用端末）の効果的な活用【教師：83%、保護者：96%、児童：86%【B】

→学び合いのための手立て（相互授業参観の目標）はおおむね達成。校内研究を通して、ICTを効果的に活用した授業実践ができた。また、小中学力定着プロジェクト会議での学力調査の分析・授業改善に関する研修を計画的に実施できた。4年生以上で、教科担任制による専門性の高い授業が実施できた。

基礎・基本の定着

① 朝学習・補習の活用【86%】【C】 ② 学習規律の徹底【88%】【B】

② 家庭学習（学年×10分+10分）の定着【82%】【B】

③ はちおうじっ子ミニマムの定着率（6年生）【国語：8割以上75%＊満点7名、5割以下4名 算数：70%＊満点21名、5割以下1名】【C】

→学習規律の定着はおおむね達成。家庭学習については、放課後学習教室（放課後フライト）の活用が一定の成果を上げている。6年生は、3学期に「全問正解チャレンジ」に取り組みせ、はちおうじっ子ミニマム80%以上の達成を目指す。

その他の取組より

・外国語専科による専門性の高い外国語（5・6年生）・外国語活動（3・4年生）の指導【A】

→3年生以上の外国語活動・外国語科では、外国語専科による専門性の高い指導が実施できた。6年生実施の「英検support program ESG」では、外国語に対する「関心・意欲」が9割以上と高い数値であった。

・読書活動の推進【A】

→全学年1回以上／月の読み聞かせ、及び、2回／年の読書旬間実施。放送での読み聞かせや図書室前のおすすめの本の紹介コーナー等、読書推進の取組が実施できた。

・プログラミング教育の充実（3年生以上）【A】

→外部講師を活用したプログラミング学習を実施できた（2～4年生）。また、3・4年生はプログラミングコンテストに応募し、金賞（1名）銀賞（2名）銅賞（13名）を受賞した。

・地域に学ぶ機会の拡充（郷土学習）【全学年】 【B】

→年間計画通り実施できた

- ・「ふゆのあそびをしょうかいしよう（昔遊び）（1年生）
- ・「まちのすてきをみつけよう」（地域施設の訪問）（2年生）
- ・スーパーマーケット見学・地域巡り（3年生）
- ・障害理解「つくろう！北野未来予想図」（4年生）
- ・米作り（5年生）
- ・「日光ってどんなところ？」（八王子市との関連）（6年生）

・学校の歴史を歌い繋ぐ取組【A】

→「由井一物語」の作曲者の平井 李枝先生によるコンサートの実施

・伝統文化体験【B】

→車人形体験（3・4年生）、八王子祭りとお太鼓体験（3年生）

・音楽の取組の充実【A】

→打越中学校の音楽祭の鑑賞（6年生）

→文化芸術推進事業の取組として、音楽指導と成果発表（6年生）

・美術鑑賞の実施【B】

→展覧会での学年及びたて割り班での作品を鑑賞し合う機会を設定（全校）

→子ども学芸員による作品紹介の実施（6年生）

→中学校学習発表会に参加し作品鑑賞を実施（6年生）

・家庭学習や自主学習の定着に向けた取組【A】

→「由井一タイム（1回／週）」及び「放課後フライト（4回／週）」による放課後を活用した補習を実施し、学力定着、家庭学習の定着に努めた

○「豊かな人間性」を育むために

人権教育の推進

① 異学年・異年齢・障がい者等との交流による人権意識の向上【74%】 【C】

→昼休みを使ったロング集会を年間15回以上実施。展覧会に合わせた全校共同作品作りや、たて割りでの鑑賞活動など、たてわり班での交流を充実させることができた。また、異学年による学習の成果発表による学び合いを実施できた。

→幼稚園・保育園児との交流（1・5年）、副席交流（4年）及び障がい者との交流事業（4年）も計画通り実施できた。

② 校内相談体制の充実・いじめアンケート、「子供見守りシート」実施によるいじめ早期発見・早期対応【教師：93%、保護者：85%、児童：88%】【B】

→いじめ対策委員会（1回/週）及び研修会（3回/年）を確実に実施。いじめ案件に対して、臨時いじめ対策委員会の開催、組織的な対応の徹底が図れた。

→養護教諭による「いのちの安全教育」を実施

道徳教育の充実

○「考え、議論する道徳」の実施といじめ問題に対応できる資質能力の育成【88%】【B】

→概ね意識して実施できた。2学期の道徳授業地区公開講座では、全学年、指導案を作成しねらいや内容項目を明確にさせた他、保護者向けプリントを作成して事前配布することで、学校と家庭・地域とがねらいを共有した道徳授業を実施することができた。

感性を磨く教育

○展覧会や由井一美術館の活用、地域学習を通じた、学校愛や地域愛の醸成と豊かな表現力の育成【82%】【B】

→展覧会での全校鑑賞活動の実施と、子ども学芸員を活用した豊かな表現力の育成を図った。

→地域資源を活用した地域学習は全学年、年間計画通り実施できた。2年生は近隣施設に訪問して地域で働く方と交流を通して、地域を大切にしようとする意欲を高めた。

→6年生は打越中学校の学習発表（作品展示）の参観を実施できた。

→市民センター祭りへの小中3校の図工作品の出品。相互鑑賞活動を実施できた

その他の取組より

・肯定的な児童理解（いじめアンケートを実施し、児童理解に活用）【A】

・「ふれあい月間」の取組（7月・3月）、いのちの大切さを共に考える日（6月）、「生命（いのち）の安全教育」（9月）【A】

→「ふれあい月間」のいじめアンケートの確実な実施と聞き取り。「いのちの日」「生命（いのち）の安全教育」の校長講話と全学年「生命尊重」に関連した道徳授業の実施

→養護教諭による「いのちの安全教育」の実施

・SNSトラブル防止授業【A】

→セーフティ教室を活用し、5・6年生でSNSに関する出前授業を実施

○「健やかな心と体」を育むために

体力向上策

① 体力テストの結果分析及び、体力向上推進計画の数値目標達成に向けた授業改善

【教員：86%】【B】

→体力テストの結果分析による、持久力の向上を目指し、縄跳びチャレンジ及び、持久走週間の取組を継続している。

② 体育的取組の充実による運動意欲の向上【教員：86%】【B】

→4年生以上の体育科の教科担任制による専門性の高い授業の実践及び、体育の相互授業参観による学び合いによる授業改善を図った。また、小教研で本校教員によるバスケットボール（5年生）の授業を公開し、校内のみならず市内の教員が体育の授業について学び合う機会を設定することができた。

健康な体づくり

○養護教諭・栄養士の他、関連機関と連携した心と体の健康にかかわる授業の実施

【教員：86%】【B】

→栄養士による食育授業を全学年で実施。（1～3年：野菜の皮むき、4年：食品ロス、5年：地産地消・だしの飲み比べ、6年：3学期実施）。また、給食の時間を利用して、全学級に食育指導（ランチミーティング）を実施した。

→6年間の食育の成果として、「はちおうじっ子ミニマム【食育版】」を実施（6年生）

→養護教諭による保健・健康指導（移動教室前の生理指導、歯科医による歯磨き指導、専門機関と連携した薬物乱用防止教室、助産師による出前授業）、長期休業前の生活リズム調査（全学年）を実施できた。

その他の取組より

・QU調査（5年）を基に一人一人に寄り添う指導の徹底【B】

・「交通事故ゼロ」【100%】「あいさつ」【児童：85%】「規範意識の確立」【児童：91%】を目指した生活指導の充実【B】

→児童会を中心としたあいさつ運動や、打越中学校と連携した「おは（8）ようの日（毎月8日の合同あいさつ運動）」を実施。学校全体のあいさつの定着率が高い。

・キャリア教育の推進【保護者：72%、児童：70% *わからない 保：23%、児：21%】【C】

→キャリアパスポートへの記入は徹底できた。展示会を学年だけでなくたて割り班で鑑賞したり6年生による子ども学芸員の導入、日常的なきょうだい学年の学習交流の実施、6年生の中学校授業体験や部活見学、1・5年生の幼稚園・保育園児との交流等、成長を実感させ、新たな希望や目標をもって学校生活を送る学習に取り組んできた。

→キャリアコーディネーターによる6年生を対象としたキャリア教育を実施した。八王子市の人材だけでなく身近な保護者・地域の方を講師にした職業教育を実施できた。

→学校評価での、「わからない」という回答は、昨年より相変わらず一定層みられる。引き続き一つ一つの取組のめあてを明確にしたり、学校だよりや学校HPによる周知を図ったりする。

・危機回避能力を高める指導の充実【保護者：91%、児童：94%】【A】

→ねらいを明確にした毎月の避難訓練の実施や、生活指導朝会等での安全教育により、防災や安全な生活の指導に対する評価が高い。

○保護者・地域と共に歩む開かれた学校

学運協、保護者・地域との連携の充実

・学校運営協議会及び地域連携に関する情報発信、推進委員と連携した放課後子ども教室及び朝の子ども教室の週5日の実施、地域及び地域人材を活用した教育活動の実施【教師：89%、保護者：93%、児童：82%】【A】

→学校運営協議会だよりを年間3回に発行。学校HPに地域関連の記事を68回以上アップロードした。また、朝及び放課後子ども教室5日/週の実施。米作り（5年生）、整備活動（委員会）、読み聞かせの取組での地域人材の活用を図った（全学年）。【A】

→町会や青少対主催の「北野ストリートフェスティバル」「青少対ふれあいコンサート」に児童の有志が参画し、ダンスや愛唱歌を披露した。保護者・地域の方から高い評価を受けるとともに、参加した児童にも充実感や達成感を味わわせることができた。【A】

その他の取組より

・家庭や地域への情報発信の充実【保護者：93%】【A】

→定期的な情報発信（学校だより、学年だより、HP、home&school）、児童参加型の道徳授業地区公開講座（テーマ「協力」）、「子供見守りシート」（保護者と連携したいじめ防止の取組）の4月当初の全児童実施によるいじめ早期発見・早期対応の取組を行った。【A】

・学校運営協議会の（11回/年）の実施【A】

→台風により1回中止（10回開催）。学運協主催による漢字検定を2月に実施するとともに、中学校を会場とした漢検・英検を2回実施できた。

→学運協委員によるキャリア教育を実施できた。（6年生）

・学校評価の充実（PDCAサイクルの確立）、年2回授業アンケート、自己評価、行事ごとの保護者アンケート、生活習慣アンケートの実施と分析、公表【A】

→2回/年の授業アンケート（児童）と学校評価（保護者）の実施、行事ごとのアンケート、休み明けの生活習慣アンケートを通して、学校と家庭と協働した学校運営を行うことができた。

・「朝・放課後子ども教室」の充実 週5日間実施【A】

→推進委員会との連携のもと、朝及び放課後子ども教室を週5日実施できた。

・小中一貫教育取組計画に基づいた打越中・長沼小との協働活動の推進

【保護者：94%、児童：74%】【B】

→小中一貫教育の日での打越中学校地区の各小中学校の授業参観・研修会、情報交換を始め、

学力向上プロジェクトチーム（国語・算数）による学力に関する話し合いを5回実施した。また、年間を通した小中合同の挨拶運動の実施、6月：中学校授業体験・部活動説明会（6年生）、7月：職場体験（中学2年生）、10月：小学校運動会への中学校ボランティア部の参加、11月：打越中学校合唱祭の鑑賞（6年生）の直接交流のほか、青少対主催の地域清掃や北野ストリートフェスティバル、ふれあいコンサートでの交流等、地域行事での交流も充実できた。

→今年度より、夏休み子ども教室での中学生ボランティアの参画、中学校バレーボール部への参加（5・6年生）、夏季休業中の部活動体験（4～6年生）、中学校を会場とした小中合同の漢検・英検の実施（5・6年生）等、児童・生徒の合同の活動を充実させることができた。

・保幼小の共通実践の取組【B】

→年間4回の保幼小連携会議では、架け橋期のプログラムの検討を行うことができた。また、新1年生保護者会資料を共有し、保育園での保育内容に反映させることができた。

Ⅲ 次年度に向けた取組

○「確かな学力」を身に付けさせるために

- ① 個別最適な学びを保証する授業実践を柱とした校内研究の推進（一人一研究授業）
- ② 高学年教科担任制による各教師の専門性を活かした授業実践
- ③ 由井ータイム（週1回）、放課後フライト（週4回）を有効に活用した放課後学習の充実による基礎・基本の定着及び家庭学習定着の徹底
- ④ 学力向上プロジェクト会議の定期開催による地域小中学校の学力の実態の把握と共通実践の検討。各校の校内研修への参加。

○「豊かな人間性」を育むために

- ① ロング集会の計画的な実施により、異学年児童が十分かわりあう時間を設ける。
- ③ 地域人材や資源を生かした学習の継続（地域巡り、米作り等）。
- ④ いめ対策委員会の充実と校内研修（3回／週）でのいじめへの的確な対応力を向上させ、いじめ対応を迅速に行う学校組織の構築を図る。
- ④ 道徳科の相互授業参観を通して道徳授業の指導力を向上させ、「考え、議論する道徳」の授業づくりを継続して実施する。

○「健やかな心と体」を育むために

- ① 体力テストの結果を分析し、課題に応じて体力向上推進計画を立て、専門家による出前授業も含めた体育的な取組を計画していく。
- ② 体育科の相互授業参観を通して体育科の指導力の向上を図る。
- ② 養護教諭や栄養士のほか、外部専門機関と連携した、食育や健康教育を継続していく。
- ③ 発達段階に応じた「生命（いのち）の安全教育」を全学年で実施し、性犯罪・性暴力の加害者にも被害者にもならないための教育の推進を図る。

- ⑤キャリアパスポートを活用し、ねらいを明確にしながら4つの能力や態度をはぐくむための意図的、計画的な取組を実施するとともに、取組を公開する機会を設定する。

○保護者・地域と共に歩む開かれた学校

- ①学校運営協議会を中心とした学校運営を継続し、学校だよりや学校HP等を活用して情報発信を行う。
- ②年2回授業アンケート、自己評価、行事ごとの保護者アンケート、生活習慣アンケートを継続し、分析と公表を通して保護者の信頼にこたえられる学校を目指す。
- ③小中一貫教育のさらなる充実を図り、児童・生徒が直接交流する機会の設定を図るなど、小中一貫教育推進計画に基づいた共通した取組を継続する。
- ④町会・青少対主催の地域行事への積極的な参画を促し、学期ごとに通知表を通して学校外の活動について積極的に評価する。